

～霜月11月・沈みゆく夏、昇り来る冬、晩秋の夜空が賑やかに～

## ★皆既月食に木星・土星、そして火星が見頃になる☆

赤く色付いた柿の実が今にも落ちそうにぶら下がっているのを「それは俺が楽しみにしていたんだぞ。」と叫んでも知らん顔で、ヒヨドリが実に旨そうに啄んでいました。秋も深まってくると、夜空の雰囲気もまた違って見えるのは気のせいだとわかっているけど、ついそんな気持ちになってきます。西の空に大きく傾く夏の大三角、頭上には秋の四辺形が、「今が秋の星座の一番の見頃ですよ。」と呼びかけ、追いかけるようにすばるを先頭に冬の星座が顔を出してきます。そんな中に木星が異様に明るく輝き、西に少し離れて土星も、さらに木星を追いかけるように火星の赤い光が輝きを増してきています。さあ星空に目を向けてみましょう。



## ★最高の条件の皆既月食を楽しみましょう☆



今年のメインイベント「皆既月食」の登場です。月食は、太陽—地球—月が一直線上に並び、地球の影の中に月が入って起こる現象で、それは必ず満月の時に起こります。満月はほぼ1ヶ月に1回はやってきますが、その時にいつでも月食が起こる訳ではありませんね。それは月の軌道が地球の赤道面に対して約5度傾いているからなのです。

さて今回の皆既月食は、近年希に見る好条件になっています。それは、月食の始まりが18時9分で、宮崎市の月の出から1時間後になり、見やすい高さ（約10度）で始まります。さらに皆既の始まりが19時16分で、皆既の終わりが20時42分と、皆既の時間が1時間26分もあり、赤銅色の月をじっくりと楽しめることになります。また、月が地球の影の中心近くを通るので、赤銅色が相当暗くなってしまいます。もしかしたら皆既食最大の20時前後には、月がどこにあるか見つけるのに苦労するかもしれません。それも楽しみの1つです。

また、この時の月はおひつじ座にあり、皆既



になると空が真っ暗になり、近くにあるおうし座のすばるが輝き、木星や火星も明るさを増し、赤い月と星空とのコラボが実に印象的な眺めとなることでしょう。

## ☆皆既月食中の天王星食にも注目☆

さらにさらに、皆既食中の月に天王星が隠されるという、これまで経験したことがない現象を、目の当たりにすることが出来るのです。とは言っても、天王星は5.6等と目のいい人がギリギリ見える明るさなので、ともすると見逃してしまうかもしれません。ここはやはり双眼鏡か望遠鏡の力を借りるしか手はなさそうですね。



天王星が月に隠される（潜入）のは20時21分前後（地域によって誤差があります。）、出現は21時12分過ぎで、この時は皆既食はすでに終わっていて、半分ほど復元しています。ですから、空はかなり明るくなっているので、双眼鏡でも難しく、少し大きめの望遠鏡が必要になってきます。

我が国で観測された皆既食中の惑星の食は、1580年の土星食以来で、次に観測出来るのは2235年の同じく天王星食になります。生涯のうち今回1度しか見ることで出来ない皆既月食中の惑星食、だからなんとしてでも見てみたいものですね。

## ☆12月に最接近する火星も観望好期がやって来た☆



火星は地球のすぐ外側を回る太陽系第四惑星で、公転周期は約1年10ヶ月、地球との会合周期は約782日ですので、約2年2ヶ月ごとに接近することになります。前回は2年前の10月初旬だったので、今年12月に最接近することになります。

今シーズンの火星はおうし座の中を移動していて、8月には明け方の空で、プレアデス星団（すばる）のすぐ近くで、対照的な色を楽しませてくれていました。そして9月10月とすばるから離れ、11月に入り、宵の内の20時前には水平線上に姿を現し、明るさも-1等級とまでなり、赤く明るい姿を楽しむことが出来るようになってきます。

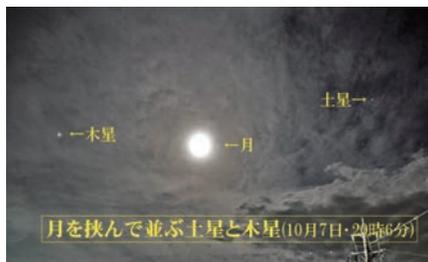
8日の皆既月食の時は、皆既の月を挟んで、右の木星と明るさを競っているように見え、中旬になると暗くなるのを待つかのように、19時には地平線上に昇っているのを確認することが出来ます。

月末になると、いよいよ最接近間近となり、西の空には土星、南には木星があり、-1.7等の





火星は冬の星座の賑やかさの中でも、赤い輝きでその存在感を十分にアピールしています。晩秋のこの時期は、夜ともなると昼間の爽やかさと違って、寒さが身のしみるようになってきます。秋から冬へと移りゆく星座を、土星や木星、火星の輝きを交えて、防寒対策をしっかりとして楽しみましょう。



写真は  
養部先生の撮影です

